

28P1-am200

タンナーゼ産生遺伝子を用いた *Staphylococcus lugdunensis* のPCRによる検出
○後藤 蛍子¹, 野口 雅久¹, 笹津 備規¹, 高 麻理², 那須 豊³, 宮原 健夫²,
平良 悟², 森安 史典²(¹東京薬大薬, ²東京医大病院消化器内科, ³東京医大八王子医
療センター中央検査部)

【目的】 *Staphylococcus (S.) lugdunensis* はコアグラゼ非産生のブドウ球菌であるが、その病原性が *S. aureus* と類似していることから、近年、院内感染や心内膜炎の原因菌として注目されている。我々は、タンナーゼを産生する *S. lugdunensis* を大腸癌患者の糞便から高率に分離し、タンナーゼ産生遺伝子 (*tanA* 遺伝子) を同定した。相同性検索の結果、*tanA* 遺伝子が *S. lugdunensis* 特有な遺伝子であると推定された。そこで本研究では、*tanA* 遺伝子を検出マーカーに用いたPCRによる *S. lugdunensis* の検出法の開発を行った。

【材料・方法】菌株は、東京医科大学病院で大腸内視鏡を受けた患者から分離したタンナーゼ産生 *S. lugdunensis* と臨床検査により分離・同定された *S. lugdunensis* を用いた。DNA シーケンス法およびPCR法は常法で行った。

【結果・考察】臨床分離 *S. lugdunensis* 30株のDNAシーケンスを解析した。DNAシーケンスの比較から *tanA* 遺伝子の保存性の高い領域内で特異的プライマーを設計した。本プライマーを用いたPCRは、一般同定法にて *S. lugdunensis* と同定された105株全てにおいて *tanA* 遺伝子を検出した。また、他の *Staphylococcus* や *Streptococcus* について同様にPCRを行ったが、*tanA* 遺伝子は検出されなかった。これらの結果は、*tanA* 遺伝子が *S. lugdunensis* に特有な遺伝子であることを示している。したがって、*tanA* 遺伝子を用いたPCR法は、高感度かつ迅速な *S. lugdunensis* 検出法として有用であると考えられた。